

## 伊賀市土地利用審議会 会議概要

1. 審議会名..... 令和3年度第3回伊賀市土地利用審議会
2. 日 時..... 2022（令和4）年1月27日 午後1時30分から午後3時
3. 会 場..... 伊賀市役所本庁舎会議室
4. 出席委員..... 5名中5名（委員名簿非公開）
5. 事務局..... 山本建設部長、小西建設部理事、川部都市計画課長、葛原都市計画課開発指導室長、吉福係長、中森主査、大門主任、中山主任
6. 公開・非公開の別..... 非公開
7. 非公開の理由..... 伊賀市審議会等の会議の公開に関する要綱第4条第2号
8. 会議概要作成年月日..... 2022（令和4）年2月14日

### ○ 事 項

- 1 あいさつ
- 2 報 告
  - (1) 伊賀市都市マスタープランについて
  - (2) 土地利用条例等の見直しについて
- 3 その他

### ○ 会議概要

報告に対する委員からの質問、意見等

- 都市マスタープランの概要版を見る限りでは、SDGsの視点は記載してありませんが、本文には位置づけられていますか。

回答：都市マスタープランの上位計画である伊賀市総合計画第三次基本計画において、SDGsに関して謳われています。その文面を都市マスタープランにも反映させ、「持続可能な開発目標」の項で位置づけ、記載しています。

（文面）

『外国人住民の割合が高く、定住化も進んでいることが大きな特長であり、人口減少対策の取り組みを進める上での強みの一つであるといえます。このような伊賀市特有の「多様性」を活かし、さまざまな立場にある人びとが地域社会の一員として活躍できる「包摂性」のある社会をめざし、SDGsの取り組みを推進していくことが求められています。』

- 都市マスタープランに位置付けられた知的対流拠点に関して、拠点間をつなぐ公共交通ネットワークがどうあるべきなのか。基本的な考え方は。

回答：知的対流拠点の考え方は、市街地を形成しているところ以外の場所も対象としています。そういった場所で、例えば少子高齢化、人口減少への対策として働く場を確保するといったことを目標に、知的対流拠点の仕組みをご利用いただけます。

知的対流拠点の各拠点まで公共交通が反映されるのは理想ですが、この2つをセットで考えると、公共交通機関が整備されるまで知的対流拠点の計画が中断することも想定されます。交通手段は、できる範囲の中で考えていく方向でと考えます。

- 都市マスタープランの中で、名阪国道をどう活用するのか。若者の交通拠点を誘導するプランが見えてくると人口減少対策にもいいと思う。

回答：都市マスタープランでは、知的対流拠点がその要素にあたり、地域の人材・資源を活用して、魅力的な働く場ができれば、若者の移住定住に寄与する可能性があると考えます。

- 土地利用条例の見直しについて。SDGsの視点から、適当な立地では福祉施設の建築が可能となる方向で見直してはどうか。

- 土地利用条例の見直しについて。空き家の活用等、既存建物の用途変更について、土地利用や都市基盤に負荷が掛からないような立地の場合、柔軟にする方向で見直してはどうか。

- 土地利用条例の見直しについて。環境問題の視点を、見直しの視点に加えてはどうか。

- 土地利用条例等の見直しとは、土地利用基本計画及び土地利用条例をそれぞれ変更するということか。

回答：土地利用基本計画においては基本区域の変更が想定されます。また、条例においては拠点や区域の追加、さらに課題を整理した上で他の条文の変更も想定されます。

以上